

1 ご意見に基づき計画の修正・追加を行う意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
1	共食	<p>P37～ 分野別の施策展開について 末子(年中)が保育所に通園中です。19時まで延長保育があり助かっているところで、なかには20時まで延長し、夕食まで提供(有料)してくれる保育園もあります。働く親にとってはとても助かりますが、幼少期の食育は大事だと思います。栄養価計算して食事を・・・とまでは言いませんが、惣菜や弁当を買ってでもいい、温かい食事を家族でとることがとても大事だと思います。子どもは親や家族がそばにいるという些細なことで安心するようです。その安心がイコール愛情だと思います。食事を作ることだけが食育ではないと考えさせられます。</p>	<p>ご指摘のように、家族で共に食事をとる「共食」は、親子の愛情を育む乳幼児期や食習慣が確立する年代には特に重要であり、食育の原点と考えていますので、29頁-3-(2)-①「生涯を通じた健全な食生活の確立と実践」に、3つの項目を起こし、「共食」をその一つとして</p> <p>「ウ 家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進 家庭は、特に子どもへの食育を推進していく大切な場であると考えられますので、家族と共に食卓を囲んでコミュニケーションを図る共食を推進します。また、食習慣が確立する年代には、学校等においても食育を強化推進する必要があります。」と修正します。</p> <p>また、36頁表中に「共食の推進(家族や仲間との楽しい雰囲気での食事の実践)」を、38頁10行目「家庭での食事の団欒」の後に「(共食)」を挿入し、更に推進してまいります。</p> <p>なお、18時からの延長保育における食事につきましては、乳幼児期が生活リズムの確立の時期でもあることから、食事の時間や栄養面にも配慮した軽食または夕食の提供を行っております。</p> <p>29頁-3-(2)-「①生涯を通じた健全な食生活の確立と実践」 38頁-「子ども期(学童期)～基本的生活習慣の確立・・・」 41頁～42頁-「◆発達段階に応じた食育の取り組み」に記載しております。</p>
2	計画への疑問	<p>これ程莫大な資料を作成され大変だったのではと思いました。私は長年保育園等の施設に調理師として勤務した者です。あるきっかけで「栄養」の大切さも勉強もさせていただきました。</p> <p>1. 食育(今回)に関しての資料は、数十年前と全く変わってない、と言って良いほどのものです。</p> <p>1. 近年になるにつれ、少しの言葉を改めている状況であり、食育というものの大切さを根本的に考え直す時が来ている。</p> <p>1. 「食育」の理念や地域の関わり等色々あげられているようですが、現実には「食育」という言葉難しく「かいり・・・」という言葉は何人の人が理解しているのでしょうか。</p> <p>1. 書類すべき為の言葉等を並べても人の心には響かない。現実意見書が何通の返信がありましたか。</p> <p>1. 今、大切なことは、食というもののなかに必要な心というものが失っていることです。</p> <p>1. 美味しい食事を作り、笑顔の出る食です。それをすべき役目は違うと言われるでしょうが。</p> <p>1. この書類は、何かの役に立って思われますか。</p> <p>1. 指導できる役所の方々の、食に対する危機感を持っていただけませんか。残念ですが役所の自己満足にすぎないようにお願いしたく、厳しいことを言わせていただきました。役所というものの逃げ道を作らないでください。</p>	<p>ご指摘の7頁・30頁「乖離」については、「隔たり」に修正いたします。</p> <p>ご意見のように、近年の食生活をめぐる環境の変化に伴い、「食育」の重要性も改めて問い直されていると考えております。</p> <p>これに対処するため、国が様々な施策の基本となる考えを「食育基本法」として示し、それを受けて福岡市も福岡市食育推進会議を設置し、施策の基本となる今回の第2次計画について審議しております。食育推進会議委員には行政関係者だけでなく、学識経験者や関係団体、地域代表、市議会議員にもご参加いただいております。計画の策定に当たっては、パブリックコメントを実施し、市民のみなさまのご意見を可能な限り反映させるようしております。</p> <p>そして、この基本計画に基づいた様々な具体的な施策を、家庭・保育所・学校・地域などと連携して進めています。今後も、本計画29項の「基本理念」に基づき推進してまいります。</p> <p>20頁-「3計画見直しの方向性」に記載しております。</p>

第2次福岡市食育推進計画パブリック・コメント意見

1 ご意見に基づき計画の修正・追加を行う意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
3	その他	☆30ページ (3)-①のアについて 「子育て世代である 30代について子どもを含め食育推進を進めていく」とありますが、子育て世代は30代に限らないので、「子育て世代は子どもも含めて食育推進をする」でいいのでは	ご意見のとおり 30項-(3)-①-ア 及び20頁右側下から8行目を 「子育て世代は子どもも含め」と修正いたします。
4	その他	☆36ページ 各ライフステージにおける施策について 高齢者を65才以上でひとまとめにしてありますが、後期高齢者にならないと低栄養になることは、ほとんどなく、むしろメタボの方が心配です。高齢化社会なので高齢者をわけて元気に長生きするようサポートするのがよいのでは	ご意見のとおり .36項(表) 及び39頁の高齢者期を
5	その他	65才以上の高齢者についてはメタボ改善を要する人と低栄養の混在が混在する。また独居や家族と共に食事をするかで、食事内容が全くちがう、向かう方向性が違う。	「メタボリックシンドロームや低栄養にならない食事への情報発信」と修正いたします。

2 今後の参考とする意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
1	乳幼児期	<p>P42 イ) 幼児後期(3歳～就学前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児前期から伝えてきた自分で食べようとする意欲の延長で、好き嫌いせず何でも食べるように伝えるべきだと思う。 ・箸や器の持ち方、寄せ集めの仕方等、食事のマナーもこの時期に伝える(主食・副食の交互食べも) ・野菜を育てる中で、より食材への興味を深める。(種まきや収穫の経験) 	<p>保育所等における食育は、子どもの発育・発達にあわせ、各年代別に「保育計画」及び「幼稚園教育課程」の一部として作成され実施されております。今後さらに子どもが食に関して興味や関心を持つように、家庭と連携しながら食育の実践を推進していきます。</p> <p>37頁-「子ども期(乳幼児期)～基本生活習慣の確立～」 41頁～42頁-「◆発達段階に応じた食育の取り組み」 48頁-「正しい食事作法の伝承」に記載しております。</p>
2	乳幼児期	<p>具体的な施策の提案 [乳幼児期]原案通り、健診、公民館、インターネット等で保護者への働きかけを行う。 ・健診などの際は、子どもが泣いたりぐずったりしてゆっくり話を聞けないことが多い。できるだけ簡単に説明してほしい。 ・子供用の皿を利用した説明を取り入れると分かり易いかもしれないです。(五器盛の応用)(図)</p>	<p>保護者への働きかけを推進してまいります。 また、健診や説明方法につきましては、ご意見を参考に、今後検討してまいります。</p> <p>37頁-「◆ライフステージに応じた食育の取り組み」に記載しております。</p>
3	幼児期	<p>具体的な施策の提案 [幼児期]小学校に入学するまでのこの期間に子どもと保護者の両方への働きかけが大切であると思います。この年代の子どもに多いのが、‘個食’、‘好き嫌い’(大半が食わず嫌い)であるように思います。「鉄は熱いうちに打て」と言います。未就学の子ども達ならば、先生の声に素直に耳を傾け、何でも食べられるようになるはずです。また、保護者も小学校に比べて参観の参加率が高いので、この年代の保護者に講演会等で話しをすると効果があると思います。 ・保育所等、月に一度は「食育の日」を実施してもらおう(公立の幼稚園では残念ながら、園児に対する食育講話はありません)・食育ランチョンマットを使って貰う。・体験型(栽培、収穫)の食育のより一層の充実を図って貰う。・保護者に対しては、プリント配布だけでなく講演会なども行う。</p>	<p>保育所等における食育は、子どもの発育・発達にあわせ、各年代別に「保育計画」及び「幼稚園教育課程」の一部として作成され実施されております。食育の実践につきましては、体験(栽培・収穫)や試食会等を通して、子どもだけでなく、保護者に対しても、食育の取り組み等の情報提供の充実に努めてまいります。</p> <p>30頁～31頁-②-「保育所等における食育の推進」 41頁～42頁-(2)「学校・保育所等における食育の推進」に記載しております。</p>
4	幼児期	<p>P42 ア) 幼児～幼児前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な食材や料理の色、間食、食感を含めた味覚、視覚、触覚を大切にしながら食事を進めた方が良いと思う。 	<p>給食をつくる時のにおい、音を身近に感じるなど、五感を使った食の体験など、給食を活用した食育の推進を図ってまいります。</p> <p>43頁-「◆給食の充実」に記載しております。</p>

第2次福岡市食育推進計画パブリック・コメント意見

2 今後の参考とする意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
5	幼児期	<p>P42 イ) 幼児後期(3歳～就学前) 今まで私が出会ってきた子ども達の中で、家庭ではあまり食べないけれど、園ではよく食べるという子が数名いました。友だちや保育士と一緒に皆で食事をすることで刺激を受け、また喜びを感じていたのだと思いました。また、好き嫌いがあつたり、ご飯が進まない子に「大きくなるよ」「かっよくなるよ」などと声かけすると頑張ってたべるようになる姿を見てきて、偏食がある子に「食べなさい」と強要するのではなく、「何で食べないのかな?」「どうしたら食べたくなるのかな?」と考え、食への興味を持たせる工夫が必要だということも気づいてきました。ただ、口の中に物を入れるだけでは、体は育って心は育ちません。食べ物をおいしく食べ、大切に思う事が、人を大切に思う気持ちにつながっていくのだと思っています。そして、保育園ならではの行事食を通して旬を知ったり、季節感を味わう事も大切だと思います。子どもが食の色々な経験や体験をしていくことで、心豊かに育っていくのだということが分かってきたからです。私は、子どもの幼児後期の食に係わるもの保育士として私自身も食事の時間を大切に、子どもが心から、おいしい、嬉しいと感じられる様な食事の時間を作っていくよう、環境作りや声かけを今後も工夫していきたいと思っています。</p>	<p>保育所等における食育は、子どもの発育・発達にあわせ、各年代別に「保育計画」及び「幼稚園教育課程」の一部として作成され実施されております。今後さらに子どもが食に関して興味や関心を持つように、園の職員、家庭と連携しながら食育の実践を推進してまいります。 今後とも食育の推進をお願いいたします。</p> <p>41頁～42頁-(2)-「主な施策」-「◆発達段階に応じた食育の取り組み」 44頁-「◆家庭・地域との連携」に記載しております。</p>
6	子ども期	<p>具体的な施策の提案 [学童期]小学校・中学校になると、保護者の懇談・講演会等への参加率が急激に低下します。よって、保護者への働きかけよりも、子ども達への教育に力を入れるべきであると思います。・低学年では、食育ランチオンマット等を利用した食育を行う。・中学年から「栄養バランスガイド」を利用する。・高学年は、実践的な(ビュッフェ等で何をすればいいのかわかる調理実習等)食育を行う。実践的な食育は中学でも引き続き行うべき。・小学校高学年～中学校にかけては「弁当の日」を積極的に取り入れて貰う。・給食試食会を各校もっと盛り上げ、給食を最大限利用する。義務教育の期間は、子ども達に「食は大切である」ことの概念を植え付けるのにもつづける期間だと思います。活動を通して、子ども達が自主的に動けるようになり、高学年の子どもが低学年の子どもに教えていくという環境を作れば、理想的だと思います。子ども達が変われば大人も変わるので、子ども達の食育活動を授業の一環として頑張してほしいです。</p>	<p>望ましい食習慣や基本的な生活習慣を確立するため、食育指導計画を立て、栄養教諭など専門職と教職員が連携し、教科指導や学級活動、総合的な学習の時間など学校教育全体を通じた食に関する指導や体験活動を取り入れた指導を実践してまいります。 また、給食を生きた教材として活用し、食の大切さを伝えてまいります。</p> <p>42頁～43頁-「小学生」「中学生」「高校生」-「◆給食の充実」に記載しております。</p>
7	学校・保育所	<p>P6 「学校・保育所等における食育の推進」について メタボリックシンドロームという言葉が浸透してきた為、意識している人はたくさんいます。子供のうちからその意識を持てるようになれば大人になってからも気をつける事が、意識していない人よりも容易になると思います。「指導体制の充実」とありますが、指導というよりも楽しく学べる環境が理想ですね。「アンパンマン」を例えにすると、主人公が悪はダメ、愛と正義が重要なのだと分かり易く教えてくれる。そんな物語りに共感し、大人になっても覚えていてくれるようなやり方があっていいのかな、と思いました。</p>	<p>いただきましたご意見を参考に、今後ともわかりやすい教材を活用しながら、子どもが食に興味を持つような体験を通じて、食べ物が身体にとって大切であることの気づきを促します。 保育所等における食育は、子どもの発育・発達にあわせ、各年代別に「保育計画」及び「幼稚園教育課程」の一部として作成され実施されております。今後さらに子どもが食に関して興味や関心を持つように、食育の実践を推進してまいります。</p> <p>30頁-②「学校・保育所等における食育の推進」 41頁-(2)-「主な施策」-「◆発達段階に応じた食育の取り組み」-「乳幼児期」 に記載しております。</p>

2 今後の参考とする意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
8	学校・家庭の連携	<p>とても立派な食育推進計画案を拝見いたしました。現在までの実態調査も興味深く見ました。小学校の懇談会でも、先生方が「給食は毎日空っぽになるまで食べてくれる」とおっしゃっておられますし、子供達も「給食が美味しくておかわりしている」と申しております。小学校でも『早寝・早起き・朝ご飯』の調査を年に2回実施しており当校の報告書はいただきますが、まだまだ市から学校経由で色々な調査報告や料理レシピ・アイデア等、知らせていただけると親子でもっと関心を持てると思います。昨年度までは、保健室より「那珂よしくッキング」という簡単に子供が作れるレシピを配布してくださり参考になりました。幼稚園にも、幼児向けレシピや食品添加物の実態等、保護者へ知らせていただけると助かります。又、市政便りで情報を発信していただき、もつと公民館を利用していただけると近いので行きやすいと思います。27年度までの計画でしたが、なるべく実行していただき、より健康な生活が送れることを楽しみにしております。</p>	<p>いただきましたご意見を参考に、給食だより等を利用した食育情報の提供を推進するとともに、離乳食・給食レシピや朝ご飯メニューの紹介等の充実をはかりたいと思います。</p> <p>また、市政だよりや市ホームページ等で、今後も引き続き情報発信を行うとともに、地域と連携した食育の充実を図ってまいります。</p> <p>44頁-「◆家庭と地域の連携」 39頁-「◆地域における食育の支援のネットワークづくり」に記載しております。</p>
9	保育所・家庭・地域の連携	<p>P37 ライフステージに応じた食育の取り組み 子供期(乳幼児期)～基本的な生活習慣の確立～</p> <p>・第1子の子育てをしている保護者の方からは、離乳食の進め方について相談を受けるので、その都度給食の先生からのアドバイスを頂きながら、指導している。多くの保護者の方々は、園と協力しながら進めているが、独自の考え方や、かたよった知識を子供におしつけ、子どもの負担になっている場合もある。各教室や、各機関での指導の際、個人差に応じて柔軟な進め方が出来るようよびかけて頂けたらと思う。現在、園に来ている子どもたち(0才児)は朝食をきちんと食べている。喜んで食べてくれる事が保護者の意欲となっているようだが、きちんと座って食べる習慣がついておらず、遊ばせながらやウロウロしながらという声も聞かれている。園では、落ちついて、座っての食事が出来ているので、食事内容だけでなく、食事をする際の環境や関わり方についても、呼びかけていく必要がある。食物に対しての好き嫌いが出てきている為、嫌がるので食べさせないという保護者や、どうしたら食べてくれるのか困っているという保護者もいる。園では声掛けを工夫する等し、子どもの個人差に合わせて進める心掛けている。今後も家庭での様子を聞きながら連携をとり、無理のないよう進めていきたい。</p>	<p>保護者に対する食事相談の充実や地域合同の食育イベント開催等、地域での活動の促進を支援します。</p> <p>また、保育所における食育は、子どもの発育・発達にあわせ、各年代別に保育計画の指導計画の一部として作成され実施されております。今後も、家庭や地域等と連携を図りながら食育を推進してまいります。</p> <p>44頁-「◆家庭・地域との連携」 41頁-(2)-「主な施策」-「◆発達段階に応じた食育の取り組み」-「乳幼児期」記載しております。</p>

第2次福岡市食育推進計画パブリック・コメント意見

2 今後の参考とする意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
10	保育所・学校・家庭の連携	<p>P41 学校、保育所、幼稚園等における食育の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章だけでなく、図式化すると全体の流れがわかりやすくなると思う。 ・子どもの食を巡っての問題には、個食も含まれると思う。また食材の元の姿を知らないことも多いので、野菜の栽培等も計画に入れていくと良いと思う。(園でトマト栽培をして、苦手な子どもが食べることができるようになった) ・平成18年度から今まで取り組んできたことの内容、成果、これからの課題を具体的に知らせてもらえると、今後の方向性が明確になると思う。 ・子ども達だけに伝えていくのではなく、保護者(家庭)の意識付けが大切だと思う。学校等での取り組みを知らせたり、イベントを行ったりすると良いと思う。 ・発達段階に応じて、食育についての紙芝居等を配布してもらえると、子ども達に伝えやすいと思う。 ・園や学校によって、取り組みに差が出ないよう、私達保育士がしっかり食育について知らなければいけないと思う。 	<p>35頁,36頁に計画の概要および各ライフスタイルにおける具体的施策の展開を図式化しております。</p> <p>保育所等における食育は、子どもの発育・発達にあわせ、各年代別に「保育計画」及び「幼稚園教育課程」の一部として作成され実施されております。今後さらに子どもが食に関して興味や関心を持つように、園の職員、家庭と連携しながら食育の実践を推進してまいります。</p> <p>また、学校におきましても、保護者に対して、学校での食育の取り組み状況などの情報発信に努めてまいります。</p> <p>35頁、36頁、 41頁～42頁－(2)－「主な施策」 －「◆発達段階に応じた食育の取り組み」に記載しております。</p>
11	地域との連携	<p>具体的な施策の提案</p> <p>[地域との連携]公民館で行われている「土曜学級」を利用して、小学校高学年～中学生向けの「土曜食育学級」等を行ってみるのはどうかと思います。(年間を通して、栄養の話と調理実習を行っていく。)ご飯の炊き方から始まり、おにぎり、卵焼き、オムレツ等の卵料理、味噌汁など基本的な食事を作らせるとよいかと思います。食進会の方々と一緒に行えば、更に勉強になるでしょう。</p>	<p>自治協議会が開催する食に関する事業をはじめ、地域の高齢者や食生活改善推進員等を講師とした郷土料理の講話や調理実習など食育推進に向けた取り組みを支援していきます。</p> <p>39頁～40頁－「地域と一体となった食育の推進」に記載しております。</p>
12	地産地消	<p>P45[現状と今後の方向性]について</p> <p>市内産農林水産物の需要を高めていく為には、市内産の物をもっとアピールしていくと良いのではないかと思います。買い物に行った時、福岡産という表示を見ると親近感が沸いたり、住んでいる所＝安心して食べる事が出来る等私は感じる。輸入されたものだと福岡産よりも安く買えたり、物や食べ物があふれている時代なので、生産者の方々の大変さや作って下さった有り難みを消費者は考えていかなければいけないと思う。物や食べ物があって当たり前という考えを捨ててしまわなければならないと思う。</p>	<p>市内産農林水産物の需要を高めるためにも地産地消の推進は重要であると考えております。農水産物直売所のPRをはじめ農漁業体験や農林水産まつりなど各種イベントの実施を通して、地元農水産物の消費拡大に努めてまいります。</p> <p>45頁－「(3)生産者と消費者との交流や農林漁業の活性化」に記載しております。</p>

2 今後の参考とする意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
13	地産地消	<p>P45 生産者と消費者との交流や農林漁業の活性化地産地消の推進について ・スーパーなどへ行くといろいろな県産の物が置いてあり、よく見ないと分からない為、分かりづらい。福岡県産物だけを扱っている大型直売所などがあると分かりやすく、一つひとつの物を手に取りながら考える時間が必要ない。又、スーパーなどでも福岡県産物だけを扱っているコーナーを作ると消費者も分かりやすいと思う。普通と並べて販売するだけでは他の県のものであまり変化がない為、それぞれの野菜の生産者など、顔写真を掲示したり、簡単な説明を載せたチラシやパンフレットを置き、消費者に対しどのようにして作られたか、どのようにして水あげされたのかなどを知らせると安心感を与えることが出来ると思う。又、ビデオなどで野菜を育てている様子など映像として知らせるとより分かりやすく子どもたちもとても興味を持つと思う。</p> <p>・地産地消をより進める為に福岡県産物を販売しているコーナーでいろいろな調理方法や郷土料理なども紹介していくと消費者も身近に感じる事ができるので、良いと思う、またレシピなどの掲示でも良いが、休日などの平日よりも消費者がゆとりを持って買い物をする時間など実演などがあると分かりやすいと思う。</p> <p>・消費者により親しみやすく、まずはどのようなものがあるかを知り、足を運んでもらうことが大切だと思う。イベントを企画したり、公共の電波などを使って(情報を流しても一定の消費者にしか伝わらないので絶対に足を運ぶスーパーなどで知らせていくことが良いと思う。又、野菜や魚などの販売コーナーは緑や茶色などの暗い色が多いので販売コーナーを明るく楽しいイメージするなど消費者との関わりや交流の場を少しずつ増やしていくこと地産地消を推進していくことの一つになってくるのではないかと思う</p>	<p>地産地消を推進する有効な手段の一つに農水産物直売所がありますが、近年ではスーパーマーケットなど量販店内に産直コーナーを設置する店舗も増えてきています。</p> <p>このような情報について、直売所マップを作成・配布するほか、市政だよりや市のホームページへの掲示など様々な広報手段を活用して市民の皆様にはPRしていきたいと考えております。</p> <p>また、食育や食と農への理解促進を図ることを目的として、産地見学や料理教室、親子みそづくり体験なども実施しております。今後、さらに内容の充実を図りたいと考えております。</p> <p>45頁-「(3)生産者と消費者との交流や農林業の活性化」、 48頁-「福岡ならではの郷土料理や食材の普及」に記載しております。</p>
14	情報発信	<p>「弁当男子」なるものが流行ってお弁当を持参する若い男性が増えていますが、このように「弁当〇〇」などとネットやツイッター、マスメディアの活用等で流行らせてしまえば、若い世代の改善が望まれるかもしれません。 つたない文章で申し訳ありません。皆様の更なるご健勝をお祈り申し上げます。</p>	<p>ご意見につきましては、食育を推進するためのマスメディアの活用等を検討してまいります。</p> <p>38頁-「若者期(概ね高校生から20歳代まで)～健全な食習慣と・・・」 49頁～50頁-「(5)安全安心な食生活」 57頁-「福岡市食育推進のイメージ」に記載しております。</p>
15	食事バランスガイド等	<p>もっと具体的に、より効果のある施策をお願いしたいと思います。ここで、どの時期においても、献立づくりというのが重要となるのですが、「食事バランスガイド」だけでなく、取り入れていただきたいものがあります。それは、自分の食卓を目で見てチェックできるように「五器盛」を応用した「一汁三菜配膳図」です。「食事バランスガイド」は素晴らしいものですが、それを実践に移すのはなかなか難しいものがあるかと思えます。この配膳図を利用すると、自然にバランスの良い献立が作れるので、どの世代にも受け入れやすいと思えます。5品揃えるのは難しいのであれば、4品揃える食育ランチョンマットを利用すれば、より広い年代でも理解しやすいかと思えます。(2図)</p>	<p>ご意見につきましては、「食事バランスガイド」だけではなく、個人に合わせて使いやすいその他のツールの活用も検討してまいります。</p>

第2次福岡市食育推進計画パブリック・コメント意見

2 今後の参考とする意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
16	食事バランスガイド等	<p>○分かり易い図や絵を用い、興味を引く。 <食事バランスガイド>一日に何をどれだけ食べたら良いかを分かりやすく示した、食事の目安になるもの。主食、副菜、主菜、牛乳、乳製品、果物の5つのグループの組み合わせでバランスが取れるように、それぞれの適量をコマで表したものを。(バランスガイド図) <3・2・1弁当箱法>①自分にあったサイズの弁当箱を選ぶ②料理が動かないようにしっかり詰める③料理の組み合わせは、主食3:主菜1:副菜2の表面比に④同じ料理法のおかずを重ねない⑤何よりも大切なことは、美味しくできれいなこと!!(図) ○子どもには分かり易いよう、色を使って知らせる。4つのお皿をそろえよう!![副菜]みどりのグループ…体をじょうぶにするお皿(図)、[主菜]あかのグループ…からだをつくるもとになるお皿(図)、[主食]きいろのグループ…エネルギーのもとになるお皿、[汁物]しろのグループ…おいしいあじがひろがるお皿(図) (毎食4つの皿がそろっているか、色の組み合わせとしてとらえれば、子ども達にも分かり易</p>	<p>ご意見を参考に今後食育を推進してまいります。</p> <p>39頁～40頁「地域と一体となった食育の推進」に記載しております。</p>
17	食育の重要性	<p>P30(3) 具体的な施策の方向性 今は食について豊富で何でも有りの中 子どもに対して食育について余り考えず何でも親と一緒にという考えで与えている。健康についても理解を深めていく上では、食生活改善の具体的な施策を考慮して頂きたい。健康が一番という声を大にして取り組んでほしい。</p>	<p>ご意見を参考に今後食育を推進してまいります。</p>
18	成果指標	<p>(2)食に対して「安心」「どとらかといえれば安心」を感じる市民の割合が22年で46.4% 目標値50%というのは低すぎるように思います。本来なら100%とすべきです。100%というのは達成が無理でしょうからせめて70%にはしてほしい。</p>	<p>ご意見のように、全ての市民が安心と感じていただけることが望ましい姿と考えております。しかしながら、食の「安心」については、価値観の違いや心理的要素など、個人的主観がその判断基準を大きく左右します。そのため、その時の事件事故の発生により、数値は大きく変動します。今回は平成27年度までの目標ということで、少なくとも半数以上の方が「安心」と感じていただけるよう目標値を設定しました。今後ともより多くの市民が「安心」と感じていただけるよう、食品の信頼性が向上するような施策の推進に努めます。</p>
19	成果指標	<p>☆28ページ成果指標について (1)体型肥満女性40歳以上の現状値が15.6%で目標値が15%以下というのは数字が高いのでは。第1次が20.5→15%以下なら2次は10%以下でも</p>	<p>目標値をもっと高く(数字上は低く)すべきではないかのご意見ですが、40歳以上の女性を平均すると確かに直近値では4.9ポイント改善していますが、各年代ごとに見ますと高齢者の数値が悪いのが現状です。全体を改善するためには特にこの高齢者の改善が必要となりますが、活動量の低下等により、早急な改善は難しいものです。このため引き続き15%以下と設定し、目標達成状況に従い、随時見直しを行ってまいります。</p>
20	食進会	<p>①地域のコミュニティー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と校区・公民館等地域の連携を密してほしい。 ・校区によっては食育に理解を示してもらえず食進会活動に差が出ているため、ある程度一定の活動が出来る様にして欲しい。 ・もう少し地域のPRをしてほしい ・市の方(区)自治連合会等に食進会の運動推進を徹底して頂きたい 	<p>食生活改善推進員等が行っているボランティア活動のPRに努めるなど、今後も食育を推進してまいります。</p> <p>39頁～40頁「◆地域における食育の支援のためのネットワークづくり」に記載しております。</p>

第2次福岡市食育推進計画パブリック・コメント

3 既に計画に記載している内容と同じなど、原案どおりとする意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
1	幼児期	P29(1)基本理念 ・園においても目標を掲げ、幼児期において、食を営む力を養っていける様、職員が日々努力しています。食への興味や関心が持てる様な働きかけをこれからも大切に生涯にわたって食事を楽しむ基礎を養っていききたいと思う。	理念に基づき、食育の推進につとめてまいります。 29頁-3-「(1)基本理念」に記載しております。
2	学校・保育所	第2次食育推進計画原案を読ませていただきました。私は、小学生2人、幼稚園児1人の母でありますので、子ども期(乳幼児から中学生)の施策原案について意見を述べさせていただきます。まず、第1次推進計画の成果で問題点として取り上げられていたのが、若年層の朝食欠食や野菜不足でしたが、以前のお聞きした、九州大学大学院農学研究院園芸分野助教授の比良松先生の「弁当の日」のお話の中にこの結果とリンクすることがありましたので、紹介します。先生は、何気ない女学生の誘いから「弁当の日」に参加されるようになり、授業の一環で学生の1日の食事調査を取られているそうです。その学生の食事内容は、第1次推進計画の結果にもあるよう、朝食欠食、野菜不足、お菓子を食事代わりにするなどのバランスを全く考えない食事・・・等、さんざんなものでした。そこで出てきた学生の意見が「バランスの良い食事を取らないといけないのは分かっている。けれど、作ったこともないし、どうしていいか分からない。近くにコンビニや居酒屋があるから食べるものには困らないので、このような食事をしています。」というものだったそうです。この話を聞いて、何が問題か・・・という、現代は「食卓」のイメージができない、自分で作ることができない」という若者が多いことだというお話でした。では、なぜこのようになってしまっているのでしょうか？近くにコンビニ、飲食店があふれていて、労せず食事を取ることができるからかもしれません。 しかしそれ以上に問題なのは、核家族化、共働き家庭の増加、子供にあまり手伝いをさせていない等の理由で、家庭の中での母から子への伝承がうまくできない社会になっていることではないかと思えます。また、家庭科の授業時間も削減され、包丁を持つ機会も本当に減っているようで、これで「自分でバランスの良い食事を作りなさい」と言われても、大半の若者が困惑するのは致し方ないと思えます。故に楽なほうへ走るのでしょうか。では、家庭での「食」の伝承をうまくやればいけないかという、それはなかなかできないと思えます。現代の若者の問題を解決するには、教育を通して、「何をどう食べれば、バランスの良い食事と呼べるのか。自炊できなくとも何をどのように選択すればいいのか、自分で判断できる」子どもを育てることが重要であると思えます。「食」は一生にかかわる問題です。食育を充実させ、子どものうちに「食」のスキルを身につけさせることを目指してほしいと思えます。子どもが変われば、親も変わる。そのような施策を推進していただきたいです。このことを考えると、第2次食育推進計画原案にある基本理念は、とても素晴らしいと思えます。	お考えのとおり、家庭での親から子への伝承がうまくできなくなっている部分もあります。 そこで、新学習指導要領では、「食育」は、「知徳体」の土台として今まで以上に大切なものとされ、家庭科についても今までと同じ時間数が確保され、より体験型の学習になっています。 また、栄養教諭等の専門職を配置し、教職員と連携を図りながら、望ましい食習慣の確立や健康を保つ実践力を育成しているところです。 保育所等における食育は、子どもの発育・発達にあわせ、各年代別に「保育計画」及び「幼稚園教育課程」の一部として作成され実施されております。保育所等における食育の推進につきましては、家庭との連携を図りながら、今後も一層の推進に努めてまいります。 30頁-②「学校・保育所等における食育の推進」 41頁-(2)「学校・保育所等における食育の推進」 42頁-「イ」幼児後期、「小学生」 43頁-「中学生」「高校生」「◆給食の充実」に記載しております。
3	保育所・地域の連携	P8 での成果指標の現状では評価できるので、今後も、保育所、地域の公民館で「食育」の講話等を続けていくと良いと思えます。	今後も、成果指標の達成に向けて、保育所や家庭・地域と連携し、食育の推進に一層努めてまいります。 39頁～40頁-「地域と一体となった食育の推進」に記載しております。

第2次福岡市食育推進計画パブリック・コメント意見

3 既に計画に記載している内容と同じなど、原案どおりとする意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
4	若者期	P17「若者の食生活」に関する追加調査 アンケートの集計・分析結果は、自分自身の体験から考えてもとても納得できるものだった。子どもの頃からの食生活の習慣が、大人になってからも大きく影響すると思うので、習慣付いていない若者にいかして、食育を推進していくのか、非常に難しい課題のように思われた。	若者層の健康支援としての食育推進を推進してまいります。 17頁-(3)-「①「若者の食生活」に関する追加調査」に記載しております。
5	若者期	成果指標の達成状況について 予想どおりの結果がうかがえます。やはり若い世代を対象としたイベントの企画を増やすべきだと感じました。	若い世代に対する食育の取り組みを強化してまいります。 30頁-(3)-①-「ア若い世代・働く世代への支援」に記載しております。
6	家庭・地域	P6「家庭・地域における食育の推進」について 地域における食育支援ネットワークづくりに関して賛成です。ネットワークを形成することによりお母さん同士の交流が生まれ、食事に関する情報交換を行う機会ができるのではないかと思います。一人では考えるのが大変でも、仲間がいれば楽しくなる。また、ご近所付き合いが少なくなっている現代においてご近所の方との交流の場となるのは大事な事だと思います。	第2次食育推進計画でも引き続き実施してまいります。 39頁-「◆地域における食育の支援のネットワークづくり」に記載しております。
7	地域との連携	①地域のコミュニティー マスメディア・企業・学校等との情報提供実施をもって強くし、特定健診や地域の協議会等と連絡し、バランスガイド、1日350gの野菜の摂取・朝食の必要性等を伝える事	市民運動として地域や関係団体等が連携・共働することにより食育を推進してまいります。 29頁-「③市民運動による食育の推進」 39頁-「◆地域における食育の支援のためのネットワークづくり」に記載しております。
8	保護者への働きかけ	離乳食の相談で受ける母親の食品や調理に対する理解度全く違う。専門家達が個人を大切に寄り添い援助する必要がある。	保護者への働きかけを推進してまいります。 37項-「◆ライフステージに応じた食育の取り組み」に記載しております。

第2次福岡市食育推進計画パブリック・コメント意見

3 既に計画に記載している内容と同じなど、原案どおりとする意見

番号	分類	ご意見・要望	回答
9	推進体制	各ライフステージにおける、具体的な施策の方向性(1)～(5)における食育推進や交流、活性化、情報発信などは、食育基本法ができ食育推進計画が作成され、一定の成果を上げてきたと思う。ただ、ひとりひとりの国民性が健康で生き生き長生きできるよう食生活の改善に取り込むことは、案外たやすいことではない。テレビやメディアで健康情報や栄養・食事に関する情報は、あふれるほどにあるが、それがひとりひとりの健康づくり、食生活改善に役立ち本人の成果につながる為には専門職である、管理栄養士や栄養士、そして地域で組織的にあるいは個人的に、ボランティア活動をする食生活改善推進員がもっと活用されることを望みたい。	食生活改善推進員などのボランティアを養成すると共に、地域での食育活動を支援してまいります。 30頁-「地域における食育推進の支援」 40頁-「食生活改善を実践するための人材育成と地域活動の充実」に記載しております。
10	情報発信・推進体制	食に関する悩みや問題解決は個人的なことも多く、食の専門家達が誤った情報や理解の修正をし、見守り、サポートすることでより良い食生活を継続する事が大切である。	「食」に関する情報が氾濫し、市民が正しい情報を正確に得ることが困難な状況も見受けられますので、市では食生活に関する正しい情報を手に入れることができるよう、分かりやすくタイムリーな情報発信に努めます。 また、保健所や地域で実施している栄養相談教室などを、今後も推進してまいります。 37頁-「(1)家庭・地域における食育の推進」 49頁～50頁-「(5)安全安心な食生活」に記載しております。
11	郷土料理	②郷土料理を生かした交流会をお願いします。 各地域の食材を生かした隠れた料理、保存食の作り方 (島原・具雑煮ー博多雑煮・のっぺりーだぶ・すき焼きーひきとおし) ・各地域の千恵袋を教えて欲しい。	郷土料理等の伝承に努めてまいりたいと思います。 交流会や知恵袋のご意見につきましては、事務局を通してお伝えします。 31項-「食文化の継承と国際交流」 48頁-「◆郷土料理、行事食・食事作等の伝承と・・・」に記載しております。

4 本計画の内容についての質問・疑問

番号	分類	ご意見・要望	回答
1	食材調達先	<p>P25 地域展開を中心とした食育 公民館活動で、乳幼児から高齢者まで生活習慣作りがなされ、その中で“食”という大切な生命線を楽しく学ぶ活動は本当に良いことですが、数年前、その公民館での活動の中で食中毒が発生し、今から食を楽しみ集団生活に入ろうかという子、その親に恐怖を与えました。原因は近くのスーパー？での食材調達と聞いています。その後の処理は、そして情報公開がきちんとされたのか(私の確認不足かもしれませんが)。福岡の恵まれた安心した豊かな食材もこれでは汚点になるだけです。地域活動の場での食材調達先も、ある程度の大枠で良いのでこの冊子に挿入してもらえば「絵に描いた餅」にならず良いのでは。形式のみの冊子でなく安心できる冊子を作ってほしいと希望します。</p>	<p>「地域活動の場での食材調達先」を本計画に盛り込むことにつきましては、計画の趣旨と異なりますが、ご意見のように、料理教室等を安全に運営することは重要と理解しております。 このため、地域活動において調理を伴う食育事業を行う際は、衛生管理に関する情報提供も行うよう努めてまいります。</p>



5 計画に関する感想・その他

番号	分類	ご意見・要望	回答
1	保育所	<p>P43 給食の充実について</p> <p>保育園で専門職として調理や食育に携わる中で、言葉や文章での食育をどう実践に生かしたら良いか、とまどうことが多くあります。「食育」というとクッキング保育やバイキング給食等をイベント的に行うのではなく、日々の食事のなかから多くの事を経験し学んでいくという方が幼児にとっては自然です。このことを踏まえた上で、現場で感じることは以下の内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内での栽培活動は行っているものの、都市部では田畑を近くで見る機会が少ないので、子どもの理解度も含めると、生産や流通を園児に知らせるには限りがある。 ・「食事を通じたコミュニケーション能力の獲得」→保育園での食事は「楽しく美味しく食べる」ということが大前提であるが、食事のマナーや食具の使い方、食べ方の習得を給食を通して学ぶ方が重要となっていくため、コミュニケーション能力を育むまでには至りにくい。 ・給食は栄養面で理想の食事である一方で、味付けや食材の組み合わせ、分量等も一般家庭の食事とはかけ離れた献立もあり、給食でなければ食べることのないメニュー(例:味噌汁にベーコンが入る、肉団子の中にひじきを入れる、切り干し大根をバターで炒める等)には子ども達も違和感があるようだ。味の幅を広げるための斬新な組み合わせは、家庭に向けてレシピを紹介しても受け入れがたい。 ・衛生面との兼ね合いで、子ども達にどこまで触れさせて良いのか戸惑う。採れたばかりの野菜の生の味を伝えたくても、消毒や加熱等で風味を損なう点があり、集団で実体験として食育を行うには、難しさや矛盾を感じる。 ・出身県の違いで、郷土料理と言われても知らないことも多く、現代では見かけることの少ない料理をレシピだけを見て作るのは難しい。情報も収集しにくい。 ・限られた保育時間の中で、給食の時間以外に食について話をすることは容易ではない。また、食育という点において保育士の認識にも差がある。単に調理し提供するだけでなく、給食担当者が喫食状況を見て言葉をかけ、食事を作る人と食べる人の距離を縮め、安心感を持たせている。現段階において、園での食育活動は試行錯誤しながら取り組んでいます。給食室としては、食中毒対策やアレルギー児への対応等で、事故なく食事を作ることが第一なので、食育を進めるに当たっては職員の協力を得て、日々の給食のなかから食について知らせていき、食べることが好きな子ども達に育って行けたら、保育園での食育の目標は達成できると考えてます。 	<p>保育所における食育の推進につきましては、家庭や地域、園の職員等の連携が不可欠です。今後もさらに園の職員等と連携を図りながら、日々の給食や保護者等を通じ、食育が推進できるように努めてまいります。保育所給食の献立につきましては、ご意見を参考に今後も給食の充実を図ってまいります。</p> <p>30頁-「②学校・保育所等における食育の推進」 -「学校における食育の推進」 -ウ「校内外での研修体制の充実」に記載しております。</p>
2	保育所	<p>P30(3)具体的な施策の方向性</p> <p>イ このボランティアが具体的にどのような活動をするのかよく分からないが、保育園での食育は個人的にとっても素晴らしいと思う。給食でのマナーを知り、様々な味に慣れ、量もしっかり食するようになる。以前幼稚園に勤めていたが食べられる量、好き嫌いの有無、食べる意欲、体つきに及んでも断然違い、小さな頃からの食育の成果だと感じた。</p>	<p>ご意見を参考に、今後も食育を推進してまいります。</p> <p>30頁～31頁-②-「保育所等における食育推進の支援」 41頁-「(2)学校・保育所・幼稚園における食育の推進」に記載しております。</p>

第2次福岡市食育推進計画パブリック・コメント意見

5 計画に関する感想・その他

番号	分類	ご意見・要望	回答
3	子ども期	P13 小中学校給食の残滓について 小学校のおかずの残滓は目標に達成したのに中学校では目標値まで大きな差があるということは、5～6年後、彼らが二十歳になる頃の食生活(好き嫌いなどの偏り?)が心配になります。	若い世代の問題点として、食への関心が低い、朝食の欠食、女性のやせなどがあげられています。中学生に対する給食時間を利用した食指導や食に関する情報提供のさらなる充実をはかり、食への関心を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培うよう食育の推進を図ります。 38頁-「子ども期(学童期)～基本的食習慣の確立と・・・」 41頁～42頁-「◆発達段階に応じた食育の取り組み」に記載しております。
4	若者期	「20歳代30歳代男性の朝食摂取」「18～20歳代女性の低体重」の改善が見られない！市はどのような形で、この世代に食育を実施したのか非常に興味があります。	朝食の大切さなどを分かりやすく示したリーフレットを保健所や大学・専門学校等で配布したり、市政だより等で発信するなど、意識の啓発に努めております。南区では学生とコンビニ等が協働で商品開発を行い、また城南区では大学の学生食堂で朝食キャンペーンなどを行いました。 今後は、更に地域で開催される学生料理教室やインターネットなども活用して情報発信を行うとともに低体重についての意識啓発の取り組みについても強化してまいります。
5	若者期	若者や単身者を支援する食育の項目での「食育に関心をもつ仕組みを検討する」を大いに期待します。若者の意識を変える事は大変な作業だと思いますが、何を！どの様な形で！どう伝えるべきか！より多くの人に！重要な課題ですよね。私は地域活動栄養士会に所属している管理栄養士ですが、微力ながら無償でも協力できたら・・・と心から思っております。日本の将来の為に、心身共に健康な若者が増えることを願って。	30頁-(3)-①-ア「若い世代・働く世代への支援」 38頁-「若者期(概ね高校生から20歳代まで)～・・・」に記載しております。
6	朝食	P9・10 毎日朝食を食べる人の割合について どの年代も少しずつ改善していることはとても良いことだと思います。	今後も「毎日朝食を食べる人の割合」が増えるよう食育を推進してまいります。
7	朝食	P30(3)具体的な施策の方向性 ア 実際のところ、朝食を食べる時間がなく、抜く事が多いので、将来子どもを持った時に、子どもの朝食や準備に追われて更に食べない状況に陥りそうである。意識改革だけでは、なかなか皆の朝食喫食にはつながらないと思う。	「朝食を毎日食べる」ことは食育推進で非常に重要と考えており、「朝食の大切さ」を市民の方に認識していただく「意識改革」だけではなく、「自分で作るレシピ集」などを作成し、料理を実際に作る「行動変容」につながる取組も実施しているところです。また、どうしても家で朝食が摂れない方には環境を整備し、朝食メニューのあるお店を推奨する「食育サポート店」を活用していただけます。これらの取り組みを広く市民の方に知っていただけるよう、本計画のコラム欄などで紹介をさせていただきます。 39頁-「◆地域における食育の支援のためのネットワークづくり」 -「地域で一体となった食育の推進」に記載しております。

5 計画に関する感想・その他

番号	分類	ご意見・要望	回答
8	朝食	<p>P17「若者の食生活」に関する追加調査 アンケートの結果を拝見し、人事ではないという印象を受けました。私も実家で暮らしていた時は毎日必ず朝食を摂っていましたが、一人暮らしを始めてからは、度々朝食を抜く日あるからです。朝食を食べないといけないということは分かっているのですが、アンケート結果からも分かるように、時間がないという理由で食べていない人が多いのだと思います。朝食を食べていない人に対する対策として、私が考えたことは、まず1つ日にポスターやCMで朝食の大切さを知らせる事です。又その中で、朝食を食べないとどういったことが、体の変化として表れてくるのかということを知らせると良いのではないかと思います。食べた方がいいということは誰もが分かっていることだと思いますが、食べなかったらどうなるかはよく考えたことがないと思います。専門家の意見等を取り入れ、若者へ向けて知らせていくとよいのではないかと思います。2つ目は、ただ食べるだけではなく、どのようなものが朝食として効果的なのかを知らせる事です。私自身、朝食を食べる日ただ空腹を満たすだけになってしまいがちなので、どのようなものを食べると良いのかを知りたいです。この意見を考えたことで私の日頃の朝食の摂り方について考える良いきっかけになりました。これからメニュー等にも気を付けながら毎朝、朝食を摂りたいと思います。</p>	<p>マスコミも含めて社会的な運動とすることが必要と考えており、特に学校、職場での働きかけを含め対策を行います。ご意見を参考にして今後も食育を推進してまいります。</p> <p>38頁-「若者期(概ね高校生から20歳代まで)～」に記載しております。</p>
9	地域との連携	<p>P29(2)食育推進の視点 ①園独の取り組みになっている事も沢山あると思う。縦、横のつながりを求めると、幼稚園や小学校等でどの様な食育の進め方をしているのか知ること大切ではないかと感じた。 ②園では給食を作っている側とそれを食べている側の距離は近いが農水産物を作っている人やそれを運んでくる人等と関わる事がなく、身近に関わる事が出来るともつとよいと思うが現状できていない ③「朝ご飯を食べましょう」と呼びかけをしているが実際は、菓子類や飲み物だけという子もいる。又保護者自身も朝の支度に忙しく朝食をとっていない人もいると思う。呼びかけだけではなかなか改善できない部分もある為、朝食を食べる事が何故大切なのか、どの様な物を朝食として食べるとよいのか伝えていくと、保護者の意識も変わっていくのではないかと思う。又、低体重の女性が多いと記載されていたが、一つは痩せているときれい、モデルのような洋服が着たい等メディアからの影響もあるのではないかと感じる。</p>	<p>①各区において「食育推進ネットワーク」を起ち上げ、医師会や自治協議会、学校などと連携して食育推進を行っております。 今後も、市民をはじめ家庭、地域、保育所、幼稚園、学校、大学、専門学校、職場、関係団体、行政などが、それぞれの役割に応じて主体的に活動し、市民運動として連携、共働した取り組みを推進してまいります。</p> <p>29頁-3-「(2)食育推進の視点」、55頁-「1計画の推進体制」に記載しております。</p> <p>②生産者との交流や作業体験など様々な事業を通じ農林漁業について理解を深めていただくよう努めてまいります。</p> <p>45頁-「(3)生産者と消費者との交流や農林漁業の活性化」に記載しております。</p> <p>③マスコミも含めて社会的な運動とすることが必要と考えており、特に保育所、幼稚園での保護者への情報提供や学校、職場での働きかけを含め対策を行います。ご意見を参考にして今後も食育を推進してまいります。(地域保健課)</p> <p>38頁-「若者期(概ね高校生から20歳代まで)～」に記載しております。</p>

第2次福岡市食育推進計画パブリック・コメント意見

5 計画に関する感想・その他

番号	分類	ご意見・要望	回答
9	地域との連携	<p>①地域のコミュニティー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い女性の低体重(サプリメントに便りすぎてバランスが取れてない食事をして欲しい) ・朝食欠損症をしている人が多い ・間違ったダイエット法をしている若い女性が多い ・三食きちんと食べてのダイエット、野菜欠乏症 ・現場、地元の食材を生かした交流を望みます。 ・個食が多い為にどうしてもバランスが取れてない 	<p>ご指摘のような課題に対し、大学や専門学校等とネットワークを構築するとともに、インターネットによる情報発信等で食育の推進を図ってまいります。</p> <p>26頁-(3)「若者や単身者を支援する食育」、38頁-「若者期(概ね高校生から20歳代まで)～」に記載しております。</p>
10	成果指標	<p>P8とP28 第2次成果指標について 第1次の現状でも学校給食への市内産野菜の利用割合が伸びていないのに 27年度目標値を14%→15%に上げているのは無理があるのではないのでしょうか。</p>	<p>目標値については、福岡市農林業総合計画の23年度目標値を参考に設定しております。今後も関係機関と連携し、目標達成に向けて取り組んでいきたいと考えています。</p>
11	その他	<p>数値目標については人々の幸せな暮らしに結びつく実態として成果が上がるのが大切であり、見掛けにこだわりすぎないことも大切。</p>	<p>ご意見を参考にして今後も食育を推進してまいります。</p> <p>28頁-「(3)成果指標」に記載しております。</p>
12	食進会	<p>P40 食生活改善を実践するための人材養成と地域活動の充実 21世紀に入ってすぐに養成講座を受講し微力ながらヘルスマイトとして日々活動実践している一人です。日本ではボランティアは欧米諸国に比べて少ないと言われていました。会員減が続く現在、足下を見つめて思いついたことがあったので書いてみました。(仲間同士でも意見が一致)西区では5月18日より今年度の養成講座が始まりました。毎年水曜日に講座日が設定されています。食に関心のある方が熱心に受講されていることは、私共ヘルスマイトとしては喜ばしいことです。講座修了後会員となっていたいただいた方の定着率がどうして低いのか?私共の研修実習等の日(保健所でのスキルアップの日)は年間を通じて金曜日に設定されています。養成講座の日(水曜日)を金曜日に統一していただければ定着率が向上するのではと筆をとりました。活動的な方は曜日ごとに習い事等を入れてあるのが現状です。一考をお願いいたします。</p>	<p>地域活動の中心的役割を担うボランティアは今後ますます重要な存在となると考えております。いただいたご意見を参考に、関係各課と調整を図りながら人材養成を推進してまいります。</p> <p>40頁-「食生活改善を実践するための人材養成と地域活動の拡充」に記載しております。</p>
13	食育産業との連携	<p>P30(3)具体的な施策の方向性 ウ 学生時代(7~8年前)AEON(イオン)でアルバイトをしていたが、当時から食離れの若い世代、独身世代をターゲットにした商品、売り場配置等、サービス展開をしているので、連携強化するのは効果的だと思う。</p>	<p>今後も施策を推進してまいります。</p> <p>30頁-(3)-①-「ウ 食育産業との連携強化」に記載しております。</p>
14	全体の評価	<p>P3~ 計画の基本的な考え方 福岡市食育基本計画 内容については賛同します。</p>	<p>第1次計画を踏まえ、第2次計画を推進してまいります。</p> <p>20頁-「計画見直しの方向性」に記載しております。</p>